

発行 青森県金木町役場 編集 企画室

新正一本化を

行政 協力 常任委で提唱

「新正一本化」について、このほど、金木町行政協力常任委員会で運動をすすめることになりました。

新正一本化は、いままでは『かけ声だけ』だというそしりをうけていましたが、今年からは、町ぐるみで実行に移すようにしましょう。

昭和四十六年度 山村振興地域に指定

喜良市中心に事業

生活センターなど四年で

当町の喜良市全域が、明四十六年度に、山村振興法による「振興山村」地域として、国から指定されるという、嬉しいニュースがこぼれはりました。

「振興山村」として指定されると、国、県から高額の助成金があるほか、長期の起債(借入金)を受

けるなどの利点があります。喜良市地域の場合は、昭和四十六年度から四十九年度まで総事業費六千八百万円の四カ年計画でつぎのような事業を実施することになります。

交通施策

〔拡巾改良予定の喜良市柏木線〕



△町道の柏木線(下柏木中村惣さん宅一雙葉町一)金木青森間道路の延長約千八百坪を市四路に拡巾改良する事業費二千八百万円(国庫補助六七割)で昭和四十六年度から四年間で完成

△昭和三十七年度から四十九年度までに、事業費約一千万円(全額起債)で約五十畝の国有林に造林する(部分林として

産業生産 基盤施策

△昭和三十七年度から四十九年度までに、事業費約一千万円(全額起債)で約五十畝の国有林に造林する(部分林として

生活改善センター 農林家の生活改善をはかるための拠点となるセンターを昭和四十七年度に新設する。事業費約一千万円(国庫補助五十割、県費補助十割)、建坪三百五十六平方坪、木造モルタル塗装一階建て。

建設予定地は、旧喜良市診療所跡地。

△保養センター 事業費約一千万円(補助率は生活改善センターと同じ)木造モルタル塗装一階建ての面積三百三十平方坪で、喜良市山湯の沢冷泉に建設予定。附近には、藤ノ滝や、小田川ダム予定地があり、観光地としても有名。

芦和団地 入居申込みを延期

昭和三十五年建築中の芦和団地町営住宅の入居申し込みを、次の要領で受け付け期間を延期しましたから、希望者は役場民生課へ申し込んでください。

受付期間：十二月十五日まで
住宅場所：芦和団地(字青野二〇)の三五五Ⅱ金木中学校東南)構造：簡易耐火(ブロック)平屋建て

戸数・家賃

第一種住宅(六畳、四・五畳、三畳) 十二戸、月四千円の予定

第二種住宅(六畳、四・五畳) 十四戸、月三千円の予定

入居予定：十二月中旬入居資格

1、金木町内に住居または勤務場所を有するもので、町税を滞納していない者

2、基準収入(民生課に問いあわせのこと)があつて、独立の生計を営み同居親族のある者

3、現に住宅に困窮している者

解説

山村振興法による「振興山村」の指定については、経済企画庁が昭和40年度から47年度までに、全国1,394市町村を指定する計画です。すすめてきたもので、明46年度には新たに230市町村を指定することになっており、本県関係は、当町をいれて7地域を指定し、これで912市町村となり、進行率は65%となったのです。

「振興山村」とは林野率75%以上の集落をいい、これに指定されると土地改良農道整備など、一般の公共事業の適用を受けない事業に対しても、総合事業として整備促進されるほか、市町村道の整備医療対策費、辺地債の発行など、国の財政援助措置が講じられるもので、金木町の場合は、小田川ダムに関連した事業や広域消防としての金木消防署関係の消防力の整備拡大なども促進されることになります。

十月一日発定

津軽北部消防事務組合

本部は中里町

- 去る十月一日から、金木と中里の二町で、消防に関する事務（消防団事務を除く）を共同
- 処理するため「津軽北部消防事務組合」をつ
- くり、広域消防にふみきりました。看板も
- 「金木消防署」にかわり、その隣りに「金木町消防団本部」の看板を伸よくならべました。

期待される広域化

実質は消防署が中心

現在、二町の消防力を要約すれば、金木町は、消防自動車二台、（うち一台は親子ポンプ）指揮車、自動車三台、小型動力ポンプ九台、機械員及び運転士十名の常備の金木町消防団（団員三百五十八名）があるが、中里町は、常備消防がなく、消防自動車五台、手引動力ポンプ十五台、小型動力ポンプ八台をもっている中里町消防団（団員五百十四名）のほか、中里町役場職員で組織している役場職員消防予備班（一五名）となつています。



【金木消防署の点呼風景】

このような、消防力では、常備消防をもっている金

木町でさえも、非常備消防団の出動を待たなければ、迅速な消火活動が望むことが困難であり、ましてや、最近では、消火方法も専門的な知識と技術を必要とする職業消防に変化してきています。しかしながら、一町で消防体制を整備拡充していくには、財政面で壁につきあたります。また、非常備の消防団員の出稼者が多く、しかも老齢化しているため、広域消防への機運が高まりこのたび、両町で「津軽北部消防事務組合」を組織し、常備消防力を強化することになったのです。「津軽北部消防事務組合」について、その「あらまし」を述べてみましょう。

副管理者には金木町長、また、中里町収入役は、消防事務組合の収入役とすれも兼務しています。この事務組合は、法律で定められている「一部事務組合」であつて、金木町、中里町役場のほかにもう一つの役場をつくったことになり、れっきとした地方公共団体です。したがって、議決機関である組合議会があり、この議会は関係町の議会において、互選された議員二名と消防団長の職にある者各一名、計六名の組合議会議員で構成されています。また、組合には、管理者が組合議会の同意を得て選任した監査委員二名（組合議員と学識経験者）をおいています。

組合議会の任期は、関係町の議会議員または消防団長としての任期とし、監査委員は、組合議員のうちから選任された者は、その任期中で、学識経験の任期は三年です。

組合事務局には、局長以下四名の消防職員をおいています。これは、両町から各二名を派遣した職員をもって従事させています。

消防本部、消防署

組合立消防本部は、組合事務局とともに中里町役場におき、本部の事務は組合の事務局職員がとりおき、ともに旧消防屯所をそのまま利用し、金木消防署は、署長以下二十三名、司令車一台、消防自動車二台。中里消防署は、署長以下二十二名、消防自動車二台を装備し、消防士の勤務は、ともに交代制です。

職員

消防長は管理者が任免し、消防長以外の消防職員は、管理者の承認を得て消防長が任免します。

消防経費

消防経費の負担金の率は、消防本部については、中里町が六十%金木町四十%。消防署の経費については、両町とも百分負担となっています。

広域消防系統図：別表

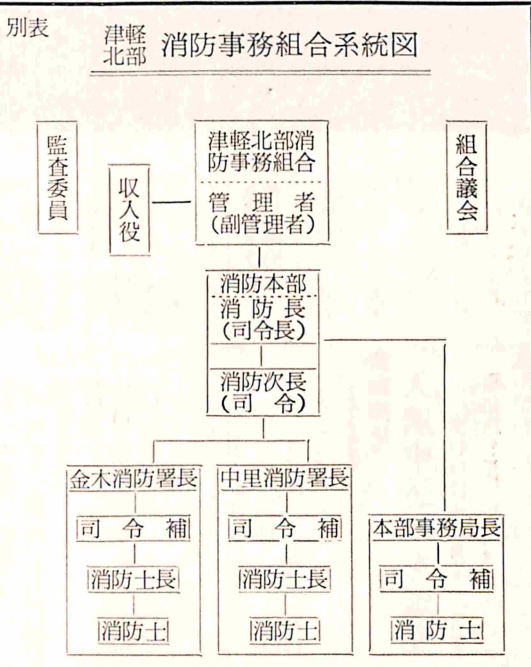
火災予防標語

今すてたタバコ

温度は 七百度

木材は燃えてから

二分で 百度となる





出稼者を慰問

留守家族の声の便り

今年の九月中旬、町では、出かせぎ先へ、声の便り〆を伝える五人編成の慰問団を、大阪、富山、東京に派遣しましたが、この慰問団の一員である山中正津さん(金木町農委事務局次長)が、このほど、この慰問の状況を記した「かけある記」を寄せてまいりましたので、つぎにご紹介しましょう。

大阪

〆出かせぎ先へ
声の便りを
伝えます〆

このような呼びかけをししたのは、大阪市福山通連、富山市辻建設、同じく富山市佐藤工業松本建設の三事業所と東京都内の各事業所へ、そして季節労働者として働きに出ている留守家庭の約七十戸。

〔出かせぎ者激励会場で
血圧測定する一コマ〕



九月十二日大阪着、午後一時過ぎ、大阪駅へ降りた慰問団の一行(小野産業課長、佐藤金木農協参事、相馬川倉農協参事、近藤喜良市農協参事、山中農委事務局次長)五人は、目指す福山通連KK大阪支店へとタクシーを飛ばした。福山通連は、本社が広島県福山市にあり、貨物自動車運送業で、東京から九州までを営業区域としており、大阪支店だけでも正社員が三五〇人、臨時、季節労働者を合わせて千人の従業員が働いているとの事である。

カッチャの声で

笑いとまらぬ十八人

数百台の大型トラックの間を通り、事務所で担当常務と支店長にあいさつし、会社側の提供してくれた社員寮の一室に町出身者の元気な顔が集まった。十五、六名くらい居るものとしていたのが、なんと、二十八名の町出身者だという。集ったのは十八名。町長、会長のあいさつから留守家族の声がテロップから流れる。みんなは、久しぶりでカッチャの声になつかし

そうに耳をかたむけ、マイクに慣れない家族の声に一座は大笑い。慰問団から町内四農協と自作農協会、出かせぎ労働者組合が拠出して作った慰問袋を各人に手渡し郷土の状況報告をしながら懇談会を行なったが、みんなの〆声〆は次のとおり。

会社は好意的だが

早く帰りたい

①〆仕事は、荷物の積み下ろしや配達などで危険なことはない。唯、働く時間が長い。何年も続けて来ているので会社でも好意的だし、特に希望と言えは宿舍を改善してほしい。あとでみてもらうが今、居る所は土方の飯場より劣る。郷土の

富山県

伝言は〆心配するな〆

熱意ある富山県職安

九月十三日午後五時、富山県の会場である職員会館へ着く。会場の借用については五所川原職安を通じ富山職安で既に手配してくれていた。六時半会館三階の大広間に、町出身の人たちが続々集ってくる。辻建設の就労者三十二名、松本建設十八名、計五十名(うち女十二名)の顔が揃った。現場が遠いので参加出来ない人もまだ二十名程いるという。とうとう、慰問袋を足りなくしてしまっ

た。出発前に調査した数は、富山市に約四十名と計算したのだが、結局役場の窓口を通さない就労者が多いことになる。座談会(というよりも激励大会)には地元から富山職安次長、同求

人係長、富山県建設協会代表、雇用者側からは辻建設専務と営業部長、松本建設社長外一名が参加した大集会になった。マイクを持って会食の席を一回りしたが、労働者手帳を持っている人は一割もない。最もこの事業所への就労者が長い人は十年だというから、労働者手帳の厄介にならないようなトラブルも起らない優良事業所だからだろうか。「みんな、元気で働いているから心配するな。」留守家族への伝言は、この一言である。

家族には電話で

読みたい郷土の新聞

便りは月に何回位か、と聞けば

新聞も読みたい。②〆手紙は、送金のたびに、月に二回くらいは出している。送金方法は、早く着くという点から郵便局を利用している。出かせぎ傷害保険は考えてみる。同じ町から二十何人も来ているので淋しいことはないが、やっぱり家へ帰る日が待ち遠しい。予定した時間を一時間以上もオーバーして懇談会を打ち切り、慰問団は会社側に「賃金と宿舍の改善」について要請。これに対し会社では、賃金については会社全体の均衡という点から大阪支店だけに直ちに引上げるわけにはゆかないが検討する。宿舍については、社員寮の前の空地に建設する計画を持っている。との回答があった。

東京

東京は二人だけ
不安多い分散就労

九月十四日、東京には十人とまとまった就労事業所はない。上野の東京出稼援護相談所で一行は最後の激励会の準備をした。一時間待っても誰も来ない。午後七時過ぎ、ようやく二人顔を見せた。約一時間話し合っていた。県外出かせぎ先慰問団の日程は終わった。十一日の夜汽車から十四日の夜汽車まで、大阪、富山、東京という三カ所慰問したが、総括してみれば、出かせぎ者たちは町からの有形無形の援助が何より心強い。新聞が読みたい。高賃金より安全性のある仕事に就労したい。また、集団就労者はリーダーが会社社交渉などやってくれるし、会社側も好遇してくれるので比較的安全であるが、二、三人就労の場合力が弱いし、危険な仕事につき場合が多く、悪い誘惑に負けることも推測される。

米寿祝い金盃を

明治15年生れの三女性

金木郵便局では、このほど、当町で米寿（八十八才）を迎えた人たち、郵政大臣からの敬老金盃を伝達しました。

郵政省では、毎年十月を簡易保険月間としているが、これは、その行事の一環として行なったもので、金木町では、はじめてのことです。

このたび、晴れの金盃を贈られたのは、樋引イツさん（朝日町政雄さん方）、田中ヨシさん（沢部米寿を祝っていました）

栄一さん方、高森いくよさん（若松町葛西武男さん方）の三人。いずれも、明治十五年生れの女性ばかり。

金木郵便局長津島賢輔さんの訪問を受けた高森さんは「大臣からほうびをいただくなんて、ほんとうに嬉しい。まだ、耳も眼も大丈夫だから、百までも長生きしてみせませす」と喜びを語り、さっそく金盃にお酒をくみ、家族みんなで米寿を祝っていました。



【津島局長より金盃を贈られ喜ぶ高森さん】

金木町役場二階に相談所をもつ「北地方農村人材銀行」は、去る十月一日に開行式を行いました。

この銀行は、木造町平賀町、浪岡町、六ヶ所村など金木町をいれて、県内五カ所に設けたものですが、金木町に設けられた、この銀行は、五所川原職業安

北地方農村人材銀行 出稼ぎの相談にどうぞ 開行は火水木の三日間

定所管内を対象にしたもので、離農して他産業に転職を希望する人たちや出稼者の相談に応じたり、情報の収集や提供なども行なうもので、労働大臣から委嘱された相談員がこの仕事にあたっています。

△相談員Ⅱ竹内正友（金木）、大谷慶作（五所川原）

△開行日時
毎週火・水・木曜日
の三日間
午前10時から午後3時まで

△相談所Ⅱ金木町役場二階



【転職の相談を受ける農村人材銀行】

心身障害者のいる家庭にとつて最も大きい悩みは、保護者に万一のことがあった場合、残された障害者を誰がめんどうみしてくれるかということだ。

この制度は、こうした保護者の不安を軽減し、心身障害者の生活の安定と福祉の向上をはかるため保護者が、お金を出しあい、心身障害者に対して年金を支給することを目的に、県で条例を制定し、実施にふみきったものです。

利用しましょう 障害者の保護制度

- 1、将来、自立することが困難な障害者を扶養している配偶者、父母、兄弟姉妹、その他知事が適当と認める人。
 - 2、県内の区域内に住居を有する人。
 - 3、四十五才未満の人（ただし昭和四十六年一月三十一日までは六十五才未満の人）
- ④ 通常行なわれていない生命保険に加入できない人は除かれます。
- 加入の手続きは「心身障害者扶養共済加入申込書」に次の書類を添えて、金木町役場（民生課）を経て知事宛に提出することになります。
- 1、心身障害者の住民票の写し
 - 2、障害の種類、程度を証明する書類（身体障害者手帳、または医師の診断書）

- 3、加入申込者（被保険者）告知書
 - 4、年金管理者指定届書
- ⑤ 申込用紙等は金木町役場（民生課）にあります。
- 掛金の額は、次のとおりです。
- | | |
|------------|---------|
| 34才まで | 月額 千円 |
| 35才から44才まで | 月額 千三百円 |
| 45才以上 | 月額 千五百円 |
- ⑥ 年齢区分は、毎年四月一日における年齢です。なお事情によっては減額していただく場合があります。
- 年金の給付には、次の種類があります。
- 1、年金 月額二万円
加入者が、死亡又は廃疾となったときは、その月から障害者の生存中支給されます。
 - 2、弔慰金 二万円
この制度へ加入して一年以上の掛金を納めた場合、保護者は、弔慰金を支給したときより先に障害者が死亡したときは弔慰金を支給します。
- 以上、制度のあらましについて述べましたが、かわしいことは、金木町役場民生課へ問いあわせてください。
- 大橋民生課長の話「この制度はできてから間もないので、知らない方が多いと思います。現在、当町では加入者が一人だけですが、もっとこの制度を利用されることをおすすめます。」

写真ニュース

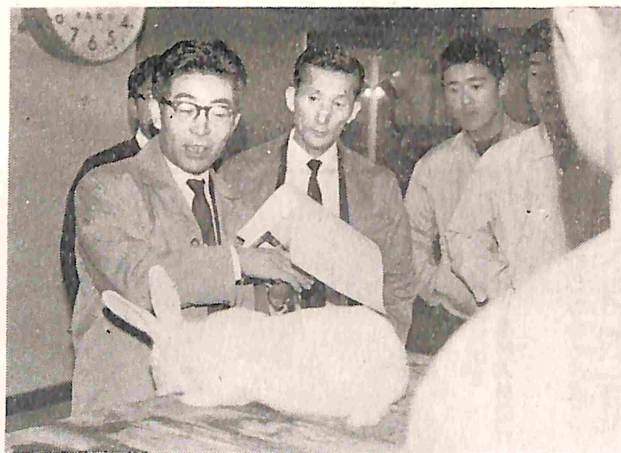
嘉瀬スキー場に
善意のヒュッテ完成

スキーシーズンを間近に控えた、嘉瀬スキー場に、二十七平方メートルの立派なヒュッテが去る十一月二十五日に完成しました。

このヒュッテは、家を新築した浜田定雄さん（嘉瀬下派立）が、長い間、嘉瀬スキー場にヒュッテがなかったのに気付いて、古い家屋材を金木南中学校（校長小山内末美氏）に寄贈したのがキッカケとなってできたものですが、この日は、小雪まじりの悪天候でしたが、校長先生を中心にPTA役員や金木町体協役員の皆さんが協力してつくりあげたものです。



【雪の日ヒュッテ造りに奉仕する嘉瀬PTA】



【うさぎを審査する五農高田中先生】

全員入賞のうさぎ展
希望にわく金木養兔組合

去る十一月二十二日（日）に、金木町養兔（と）組合（葛西武一組合長・組合員十五名）と町農業委員会共催の第一回津軽地方家兎共進会が開かれましたが、出品のうさぎが、金賞三、銀賞四、銅賞五と全部入賞して組合員は大喜び。

この共進会には、青森、深浦、市浦、飯詰などからの出品者もあつたのですが、この壮挙に組合員一同は「ッ米作一辺倒」から脱皮しようとしてはじめた肉用ウサギの飼育を副業の一つとしてふみきつたのは、昭和四十三年でした。これで希望がもてます」と手放しの嬉しがりやでした。

国勢調査

人口一万四千台に減

中・高卒の県外流出で

十月一日現在で行なつた国勢調査の集計を、このほど、三戸郡の福地村の五カ町村のみで発表しましたが、それによれば、本県の人口は、前回の昭和四十年の国勢調査時より、約一万人増の百四十二万七千四百三十人となつています。

しかしながら、増加分のほとんどは市部に集中しており、町村でふえたのは、南郡碓ケ関村、北郡小泊村、上北郡野辺地町、下田町

これは、結婚分家したものが多くなつたが、中高校卒業生のほとんどが県外就職していることが一番の原因とみられています。

区分	昭和四十五年	
	世帯	人口
青森県	三四七、六四五	一、四二七、四三〇
五所川原市	一一、四六四	四七、五五九
北津軽郡	一七、二三〇	七八、〇六四
板柳町	四、四七〇	一九、九〇三
鶴田町	三、八〇九	一七、六二〇
金木町	三、四一一	一四、九六三
中里町	三、一九六	一五、一四九
市浦村	一、〇六二	四、五一七
小泊村	一、二八二	五、九二二

昭和四十五年産

採種ほ産の優良種子もみがたくさんあります。申込み期間を十二月二十日まで延期しました。

種子もみ申込み一カ月延期

とくに「レイメイ」「サカキモチ」をおすすめします。

申込先 金木町役場 産業課

町内各農業協同組合